

## 平成 24 年度第 5 回コンクリート常任委員会議事録案

日 時：2012 年 12 月 20 日（木）14:00～17:10

場 所：土木学会・講堂

出席者：二羽委員長、下村幹事長、石橋、上田、宇治、梅原、岡澤、金津、鎌田、  
坂田（河野代理）、岸、坂井、堺、佐藤(勉)、島、鈴木、武若、田中、新藤（中村代理）、  
西垣、信田、濱田、前川、松田、丸山、宮川、睦好、森川、渡辺の各常任委員、綾野、  
岩波、小林、佐藤(靖)、久田、丸屋の各常任委員兼幹事

配付資料：

- 5-0 平成 24 年度 第 5 回コンクリート常任委員会 議事次第
- 5-1 平成 24 年度 第 4 回コンクリート常任委員会 議事録案
- 5-2 示方書 施工編 改訂概要と意見に対する回答
- 5-3 コンクリート標準示方書 [施工] 意見照会結果と対応
- 5-4 コンクリート標準示方書 基本原則編 (案)
- 5-5 コンクリート標準示方書 [基本原則編] 意見照会結果と対応
- 5-6 [設計編] 修正原稿の要点
- 5-7 教育研究小委員会 (平成 24 年度委員構成の案)
- 5-8 平成 24 年度コンクリート委員会 一般会計 予算 (案) (2012/12/19)
- 5-9 平成 25 年度「重点研究課題 (研究助成金)」募集について (ご案内)
- 5-10 平成 25 年度ジョイントセミナー実施テーマの募集 (ご案内)
- 5-11 2013 年制定規準編の軽量化について (経過のご報告)
- 5-12 平成 25 年度 土木学会全国大会 共通セッション提案書
- 5-13 繊維補強コンクリートの構造利用研究 (346) 小委員会 委員構成
- 5-14 新刊コンクリートライブラリー「ポンプ指針&高流動コンクリート指針」に関する各地区での講習会開催状況 (2012 年 11 月 21 日現在)
- 5-15 土木学会主催 東日本大震災 2 周年シンポジウム 総合編セッション 3 企画書 (案)
- 5-16 第 9 回圧送技術研究会 (案)
- 5-17 EASEC-13 call for paper

議 事：

### 1. 委員長挨拶

二羽委員長より、開会にあたって挨拶がなされた。社会情勢が大きく変化する中で、委員各位のより一層のご尽力をお願いしたい旨の要望が出された。

### 2. 平成 24 年度第 4 回コンクリート常任委員会議事録の確認【資料 5-1】

丸屋幹事より、第 4 回コンクリート常任委員会議事録が説明され、修正として以下の指摘がなされた。

・堺委員：p.2 (3)の Q&A：質問の内容は「なぜ、環境性は経済性と同等に扱って考えるのか？」

- ・前川委員：同部分：回答の内容は『同等に扱う』ということではなく、『構造物全体として、適宜、構造計画で取り扱う』こととした
- ・鎌田委員：p.3 (4)：「規準」は「設計施工指針」のことであり、資料記載の②は、改訂中の示方書施工編には NEXCO の試験方法として暫定的に取り入れられている、ということ。

### 3. 委員長選挙開票結果の公表、委員長候補の決定

事前投票の開票の結果、委員長候補者として二羽淳一郎 現委員長が再選された（開票：岩波幹事、二瓶事務局、沖事務局）。これを受けて、二羽委員長より、再選のお礼があった。

### 4. 審議事項

#### (1) 示方書施工編の審議【資料 5-2, 5-3】

河野委員（施工編主査）の代理として、坂田施工編副主査より、施工編の概要、および意見照会結果と対応についての説明がなされた。なお、施工編部会では、「施工標準」、「検査標準」、「特殊コンクリート」の一部を掲載した A5 縮小版を別途出版する予定であることが説明された。説明に対する質疑応答は以下の通りである。〔Q：質問，A：回答，C：コメント〕

Q：A5 縮小版を出版するとのことだが、構造細目など、設計編の内容も盛り込むことが必要ではないか（宇治委員）

A：使い勝手は良いと思うが、A5 版は施工編の内容を中心に記載する予定で、設計編の事項については、参照してもらう形式とすることは考えられる（坂田施工編副主査）。

C：他編を盛り込むと、ボリューム的な課題が生じ、基本は施工編をベースに考えている。（丸山委員）

Q：示方書を現場に持っていくという使用方法是考え難いのではないかと（堺委員）

A：示方書・施工編は通常、現場事務所に 1 冊おいてある。施工編は施工者のバイブル的な位置づけであり、利用頻度は高い。実際には、現行の示方書を縮小コピーして現場で使用している事例もあるので、縮小版の意義は高いと思う（坂田施工編副主査）。

A：小委員会では、縮小版の作成は承認されているが、出版のタイミングについては、維持管理編等が上梓される半年後を想定している（坂田施工編副主査、丸山委員）。

C：示方書本体が売れることが最重要なので、半年後では早すぎるのではないかと（二羽委員長）

C：縮小版についての構想が明確に示されれば、出版の方でも戦略を考えていきたい（丸屋幹事）。

C：2007 年版の販売部数は初年度 12000 冊（2007 年度）であり、それ以降は年度ごとに 4000 冊（2008 年度）、3000 冊（2009 年度）、2000 冊（2010 年度）、1000 冊（2011 年度）である（佐藤幹事）。

C：販売部数は縮小版の方が多いのではないかと予想している（坂田施工編副主査）。

Q：示方書のエッセンス版だとすると、示方書という名称を付けられないのではないかと（睦好委員）

A：厳密にはそういうことになるが、名称等については出版段階で考えたい（坂田施工編副主査）。

- C：実務の方々のニーズに応じているのであれば、それで良いと思う（宮川委員）。
- C：示方書がより多く利用されることを目論むと、縮小版の意義は大きいと思う（坂田施工編副主査）。
- C：出版に関する体制については、運営小委員会で再度検討したい（丸山委員）。
- 以上の審議を経て、示方書・施工編を出版に進めることが承認された。

## (2) 示方書基本原則編の審議【資料5-4, 5-5】

武若委員（共通編部会主査）より、基本原則編の概要、および意見照会結果と対応についての説明がなされた。説明に対する質疑応答は以下の通りである。〔Q：質問，A：回答，C：コメント〕

- Q：7月4日の段階で質問した内容についての対応が含まれていないが？（堺委員）
- A：これに対応した内容は10月版として照会している。今回の修正は12月に実施したものであるため、7月4日版へのコメントには対応したものと判断している。環境性に関するネガティブな表記については可能な限り修正して対応した（武若委員，信田委員）。
- C：後ほど，どのように対応したかを示して欲しい（堺委員）。
- Q：ISOについての対応（p.37）について，認識が異なっているのではないかと？（堺委員）
- A：p.37の表記については再度検討し，修正を検討したい（武若委員）。
- Q：環境性については，安全性などの要求性能とバランスを取りながら設計，施工，維持管理すべきというスタンスで記述する必要があるのではないかと？（堺委員）
- A：p.36の解説部分を中心に，読合せ段階で再度検討したい（武若委員）。
- C：環境に関する意識に対する時代背景も考えて，バランスを考えた記述とするのが妥当だろう（丸山委員，石橋委員）
- Q：維持管理は供用開始段階からオーナーの義務であるが，このことは触れられているか（金津委員）
- A：言及している（武若委員）。
- Q：後発で出版される維持管理編を引用しているので，しかるべき対応が必要（梅原委員）
- A：引用ではなくて，具体的な内容を記載して対応する（武若委員）。
- Q：補修，補強を前提としない体系（p.5, 2行目）の記載などはどうか？補修，補強を前提とした設計もあり得るのではないかと？（上田委員）
- A：部会内等でも議論したが，実際には，大規模な補修，補強を前提とした設計というものはあり得ないのではないかと，という判断から，現状の記述になっている（武若委員）。
- C：補修，補強などの用語の定義によるものではないかと（小林幹事，武若委員ほか）。
- C：補修，補強を前提とすると，別の意味で齟齬が生じる可能性があるが，当該の部分の記述については，一考する（武若委員）。
- 以上の審議を経て，示方書・基本原則編を出版に進めることが承認された。

## (3) 示方書設計編の審議【資料5-6】

前川委員（設計編部会主査）より，設計編の概要，および意見照会結果と対応についての説明がなされた。説明に対する質疑応答は以下の通りである。〔Q：質問，A：回答，C：コメント〕

Q：あと施工アンカーの知見は取り入れるのか？（宮川委員）

A：今般の事故を鑑みて、いずれかの部分に組み込みたいと考えている（前川委員）。

以上の審議を経て、示方書・設計編を出版に進めることが承認された。

#### (4) あと施工アンカーの設計・施工指針案の取扱いについての審議【資料なし】

梅原委員（小委員会委員長）より、本指針案の概要についてパワーポイントを用いて説明がなされた。本編、標準編から構成される予定であり、耐久性に関する照査方法については記載していない。12月29日の笹子トンネルの事故を受けて、原因が究明されるまで出版を待つこととしている。説明に対する質疑応答は以下の通りである。〔Q：質問，A：回答，C：コメント〕

C：事前の幹事会で協議したが、現段階では耐久性や維持管理の記述がない。国交省の委員会などで結論が出てから、それを踏まえて出版することとしたい（二羽委員長）。

Q：本指針についての対応はそれで良いが、示方書のどこかには記載しておく必要があるのではないか？（宮川委員）

A：あと施工アンカー指針については、半年か1年遅れで出版する方向で考えている（丸山委員）

C：今後、国交省の調査委員会などから情報が出てくるので、示方書への取込みについては、それらの動向を踏まえながら対応したい（丸山委員）

Q：既存のトンネル指針では触れていないのか？（堺委員）

A：指針は覆工コンクリートのコールドジョイントについて述べたものであるもので、今回の事故に直接関連する記載はない（梅原委員）。

Q：樹脂系アンカーの耐久性についての記述はどうなっているのか？水の影響などについても触れる必要があるのでは？（睦好委員）

A：委員会の方で検討したい（梅原委員）。

C：原因がコンクリートなのか、樹脂なのか、明確にアピールしておく必要がある（堺委員）

C：魚本顧問からのコメントでもあるが、システムとしての構造物の安全性を検討する委員会をコンクリート委員会の中に設置する必要がある（丸山委員）。

C：社会インフラの安全性や老朽化に対する対応など、土木学会としての方針について、近々、土木学会会長と議論する予定である（鈴木委員（調査研究部門・主査理事））。

C：鈴木委員の情報も踏まえて、必要に応じて、2種委員会などの設置も検討したい（二羽委員長）。

以上の審議を経て、あと施工アンカー指針案については、しばらく発刊を見合わせる事が承認された。

#### (5) 2種委員会の委員構成について

##### ・教育研究小委員会【資料5-7】

二羽委員長より、教育研究小委員会の委員構成について説明があり、これを了承した。

<委員変更>

菅俣 匠（BASF ジャパン） → 大島正記（BASF ジャパン）

※資料 5－7 中の企業名称「BASF ポゾリス」は「BASF ジャパン」に修正

(6) その他

なし

5. 報告事項

(1) 平成 24 年度予算状況【資料 5－8】

下村幹事長より、平成 24 年度予算状況 (2012 年 12 月 19 日現在) についての説明があった。

(2) 平成 25 年度「重点研究課題 (研究助成金)」募集について【資料 5－9】

下村幹事長より、平成 25 年度「重点研究課題 (研究助成金)」募集についての説明がなされた。提案する課題があれば、委員各位から常任委員会幹事まで連絡する (応募締切：2013 年 2 月 15 日)。なお、本件に関し、鈴木委員 (調査研究部門・主査理事) から以下の補足説明がなされた。

- ・研究計画などは 1 ページに限らない。
- ・今回の採択課題から、土木学会での発表、共通セッションへのエントリーなどが義務となる。

(3) 平成 25 年度ジョイントセミナー実施テーマの募集について【資料 5－10】

下村幹事長より、平成 25 年度ジョイントセミナーの実施テーマの募集について説明がなされた。提案するテーマがあれば、委員各位から常任委員会幹事まで連絡する (応募締切：2013 年 1 月 21 日)

(4) 2013 年制定規準編の軽量化について【資料 5－11】

鎌田委員 (規準関連小委員会委員長) より、2013 年制定規準編の軽量化について説明がなされ、現在、最終的な調整の段階にある旨の報告がなされた。

(5) 平成 25 年度土木学会全国大会共通セッション提案の報告【資料 5－12】

久田幹事より、平成 25 年度土木学会全国大会共通セッションとして「震災廃棄物の処理・有効利用」というタイトルで提案したとの報告がなされた。

(6) 3 種委員会の委員構成【資料 5－13】

丸屋幹事より、繊維補強コンクリートの構造利用研究 (346) 小委員会の委員構成についての説明がなされた。

(7) 報告会・講習会開催報告

・ポンプ指針・高流動コンクリート指針【資料 5－14】

下村幹事長より、日本各地で開催されたポンプ指針・高流動コンクリート指針の講習会について報告があった。これに関し、以前より参加者が減ったので、今後、参加者増についての協力要請がなされた。開催場所：東京 (3 回)、札幌、仙台、名古屋、広島、高松、博多

・コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会（2期）（339委員会）

鎌田委員（339委員会委員長）より、11月15日（木）に土木学会講堂にてシンポジウム（AM委員会報告，論文10編の発表）を開催し，約100名の参加者があったとの説明がなされ，339委員会はこれで活動を終了するとの報告がなされた。

・コンクリート構造物のせん断力に対する設計法研究小委員会（343委員会）

佐藤幹事（343委員会委員長）より，12月7日（金）に土木学会講堂にて成果報告会を開催し，約70名の参加者があったとの説明がなされ，343委員会はこれで活動を終了するとの報告がなされた。

#### (8) その他

・久田幹事より，東日本大震災2周年シンポジウム（主催：土木学会，開催日：2013年3月6～7日，場所：土木学会講堂）の開催についての説明があり，コンクリート委員会の小委員会であるがれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会（223委員会）としてシンポジウムに参加する旨の報告がなされた【資料5-15】。

・綾野幹事より，第9回圧送技術研究会（主催：日本建築学会近畿支部，開催日：2013年2月20日，場所：ホテル大阪ベイタワー）の共催依頼についての説明がなされ，これを了承した【資料5-16】。

・佐藤幹事より，EASEC-13（開催日：2013年9月11～13日，場所：札幌）の開催についての説明があり，参加要請がなされた【資料5-17】。

#### 6. その他

・金津委員より，「電気の安定供給」に関するDVDを1部ずつ送付するので，是非ご覧いただきたいとの説明がなされた。

次回幹事会：2013年2月7日（木）15:00～17:00（案件の締切りは前日2月6日（水）17時まで），次回常任委員会：2013年2月15日（金）14:00～17:00（於：土木学会）

以上